

やまなし

## 医療最前線

県立中央病院から

《 67 》

不整脈の一つで、脳梗塞の原因にもなる心房細動。「一生付き合っていかなければならない」とされた病気に新たな治療法が導入された。県立中央病院では、血管にカテーテルを入れて心臓の内壁を焼き、原因となっている電気回路を遮断する「アブレーション手術（拡大肺静脈隔離）」が行われている。

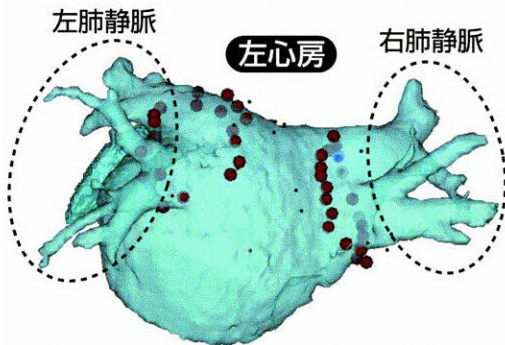
循環器内科副科長の佐野圭太医師によると、心房細動とは心臓本来の命令とは関係なく、心臓の上の部屋にあたる心房が不規則に動くことによって起こる不整脈。1分間に300～600回の電気信号が発生するため脈が乱れ、失神や心不全の症状



佐野 圭太  
循環器内科副科長

## 脳梗塞のリスクを軽減

### 心房細動のアブレーション手術



●はカテーテルを入れて焼く部位。肺静脈の周囲をリング状に焼き、電気回路を遮断する  
(県立中央病院提供)

を起こす。

さらに心臓のポンプ機能の低下によって心臓の中で血液の流れがよどみ、血栓ができやすくなる。この血栓が流れに乗って脳梗塞などを引き起こすことが「心房細動の怖いところ」と佐野医師は言う。

従来は薬で脳梗塞を予防し、脈を整える治療しかなかったが、心房細動の多くは肺の静脈から出ている1拍の不整脈を契機に起こることが判明。2000年ごろから、肺から心

房内へ余計な電気刺激が入ってこないようにするアブレーション手術が行われるようになった。

同病院では昨年度から本格的にスタート。手術では左心房にカテーテルと呼ばれる細い管を入れ、肺から返ってくる血管と心臓の間をリング状に高周波で焼く。左心房は心臓の最も奥にあることなどから高度な技術を要するという。県内では同病院と山梨厚生病院で行われている。

「根本治療ではないが、1回の治療で6～7割、2回以上行うと9割の人が治るとされる」と佐野医師。

①薬を飲んでも自覚症状が強い②時々不整脈になる③心臓の機能低下がない④などの条件を満たす人が治療対象となる。

佐野医師は「動悸などの症状や脳梗塞のリスクを軽減し、薬の量を減らせるメリットがある。興味のある人はかかりつけ医に相談してほしい」と話している。

第2、4木曜日に掲載します